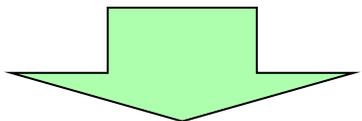


# 下関市(中国ブロック)

【計画期間 21年12月～27年3月】※ 期間延長適用後

- ・江戸以前：北前船航路の拠点として発展として発展
- ・明治～：関釜連絡船が就航する等西の玄関口として発達
- ・昭和～：昭和17年関門鉄道トンネル、昭和48年関門橋の開通による広域交通利便性が向上

- 郊外型店舗の立地の進行、北九州市(小倉地区)、福岡市等への買物客の流出により、商店街への来街者が減少
- 宿泊施設の整備の遅れや、臨海部への観光客集中により観光者は伸び悩み
- 高齢化の進展、人口は横這い、市民の活力・交流の低下



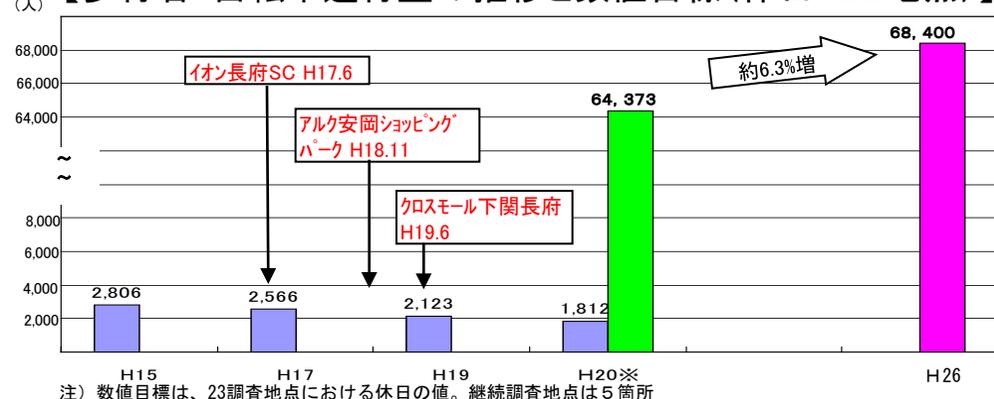
○歩行者・自転車通行量の減少  
 H15:2,806人/日→H20:1,812人/日(▲35.4%)  
 ※休日、5地点

○観光入込客数  
 H15:3,298千人/年→H16:3,184千人/年(▲3.5%)

目標	指標	現況値(H20)	目標値(H26)
歩きたくなる、回遊したくなる街	歩行者・自転車通行量(休日、23地点)	64,373人/日	68,400人/日
多彩な魅力が備わり、ゆっくり訪れたい街	観光入込客数	3,184千人/年	3,371千人/年
愛着をもって、いきいきと暮らせる街	市民サービス施設利用者数	287,669人/年※	481,000人/年

※複数施設の利用者の合計値であり、現状の計測年度は施設により相違

【歩行者・自転車通行量の推移と数値目標(休日・23地点)】

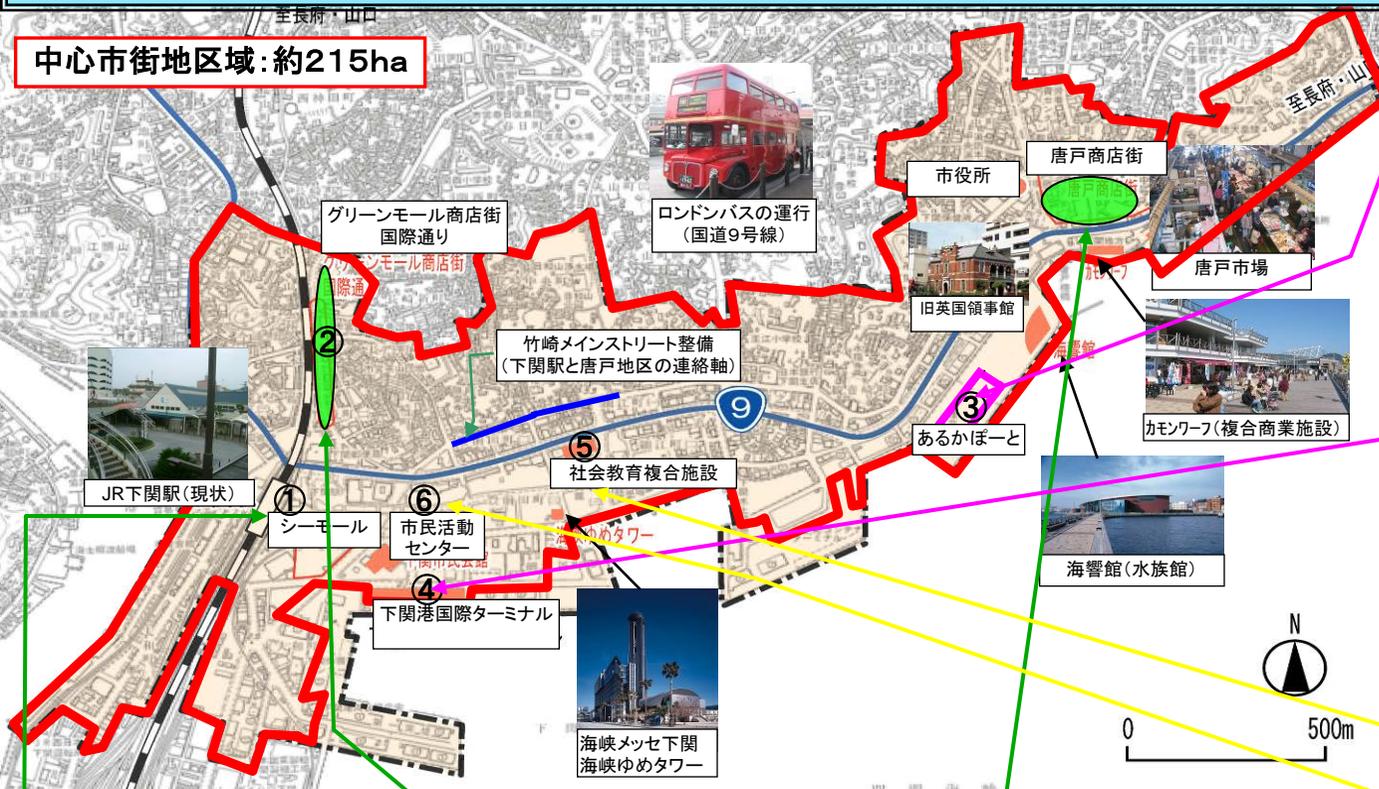


注) 数値目標は、23調査地点における休日の値。継続調査地点は5箇所

- 駅前の交通結節機能の改善や商店街の魅力アップ等により、歩きたくなる、回遊したくなる街を実現する。  
 ⇒ 主要事業: ①下関駅にぎわいプロジェクト、②国際通り整備事業、など
- 臨海部のにぎわい・交流拠点を創出し、多彩な魅力が備わり、ゆっくり訪れたい街を実現する。  
 ⇒ 主要事業: ③あるかぼーと民間開発事業、④国際観光対策事業など
- 市民のいきがいや誇りを育む施設の整備運営等により、愛着をもっていきいきと暮らせる街を実現する。  
 ⇒ 主要事業: ⑤社会教育複合施設整備運営事業、⑥しものせき市民活動センター運営事業、など

# 下関市中心市街地活性化基本計画の事業概要

中心市街地: 約215ha



## 歩きたくなる街、回遊したくなる街

### ○下関駅にぎわいプロジェクト(①)

下関駅周辺に子育て支援施設を含めた駅ビル、集客施設、駅前広場、駐車場等を整備し中心市街地の一極を担う都市拠点形成する。



### ○国際通り整備事業(②)

グリーンモール商店街の持つ固有の特徴である韓国色を全面に打ち出した食、テーマショップ、イベントの実施等により市民、観光客を取り込み下関駅前の賑わいを創出する。



### ○唐戸ふれあい商店街事業

住民のための商店街としての利便性向上、臨港部への観光客を誘引するため詩人金子みすずをテーマにした事業を行い、商店街の再生を図る。



## 多彩な魅力が備わり、ゆっくり訪れたい街

### ○あるかぼーと民間開発事業(③)

あるかぼーと地区について整備済の近隣事業と連携しつつ、ホテル、複合商業施設、駐車場等を備えた施設を整備し、臨海部の魅力を強化する。

事業概要(案)

- ・ホテル棟: 19階、200~300室
- ・複合商業施設(物販、飲食、アミューズメント等)  
: 床面積18,000~20,000㎡
- ・駐車場: 750~850台



### ○国際観光対策事業(④)

韓国等からの観光客で賑わう下関港国際ターミナルに周辺施設への案内・誘導のための看板等を整備することにより観光客の回遊性を高める。



### ○観光施設利用促進

主要観光施設である、海峡メッセ、海響館、カモンワーフ、唐戸市場等について魅力ある施設等運営やPRを行い、新たな観光客の入込み促進を図ると共に周遊利便性向上のため1日乗り放題バス乗車券の発行等を行う。

## 愛着をもって、いきいきと暮らせる街

### ○市民サービス施設の整備と利用促進(⑤、⑥)

老朽化した文化会館等を解体し、区域外から移転する中央図書館を含めた市民の生涯学習拠点の整備・運営を行う。

また、下関駅近隣に整備された市民活動センター(ふくふくサポート)により引き続き市民活動をサポートする。

社会教育複合施設(イメージ)



ふくふくサポート活動状況

